

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院血液内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「ご自身やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間：2003年1月1日～2025年10月31日の間に、虎の門病院で同種造血細胞移植を受けた方

【研究課題名】

同種造血細胞移植後の合併症の検討

【研究の目的・背景】

《目的》

同種造血細胞移植後合併症（特に血球貪食性リンパ組織球症 HLH および移植関連血栓性微小血管障害 TA-TMA、類洞閉塞症候群 SOS）について明らかにすること

《研究に至る背景》

移植適応の拡大により高齢者や併存症を有する患者に同種造血細胞移植を提供する機会が増加しています。同種造血細胞移植後合併症の発症頻度、重症度、治療内容、予後を明らかにすることで、安全かつ有効な移植方法の開発に寄与することが期待されます。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2023年 9月 25日～2030年 12月 31日

【単独／共同研究の別】

虎の門病院単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院血液内科 高木伸介のもと研究成果発表後5年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

- ・年齢、性別、診断名、病期、治療、検体検査、生理検査、画像検査、移植前治療、移植片対宿主病（GVHD）予防法
- ・同種造血細胞移植後合併症の有無、発症頻度、重症度、治療内容、予後
- ・同種造血細胞移植後合併症：血球貪食性リンパ組織球症 HLH、移植関連血栓性微小血管障害 TA-TMA、類洞閉塞症候群 SOS
- ・再発の有無、再発までの期間、生死、死亡までの期間、死因

【虎の門病院における研究責任者】

血液内科 高木伸介

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。
また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年3月31日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 血液内科 高木伸介

電話 03-3588-1111(代表)